

Risk Flash No.200 (Vol.5 No.42)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- 経済システムの視点：33年を振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1-2
- 卒業生の視点：自分という素材・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2

経済システムの視点

33年を振り返って

うめざわなおき
経済学科教授 梅澤直樹

3月末で定年退職を迎えます。1982年に赴任して以来、経済学第二や経済原論第二部、コア政治経済学といった必修ないし選択必修科目を担当し、多数の卒業生におつきあいいただきました。また、近年には学部長として、創立90周年事業をはじめ、陵水会員の皆様にはたいへんお世話になりました。この機会にあらためて厚く御礼申し上げます。

講義を通じて伝えたかったのは主体的思考の大切さです。社会・経済システムであれ、自らの属する組織であれ、私たちはその内で暮らす世界の前提とする価値観や慣習を当然のものとして、その枠内で発想しがちです。しかし、壁にぶつかったときや時代の転換点ではそうした価値観や慣習を相対化して、より広い視野で柔軟に想像力を膨らませてみることも必要です。ちょうどジョン・レノンの名曲イマジンのように。もう一点、恩師の教えに従い、講義を自らの研究と結びつけることも心掛けてきました。研究していることを講義に反映させたほうがイキイキするし、それが受講生にとっても知的刺激になるという趣旨だったと思います。こうして、講義に盛り込んだ内容は通常の経済原論より増えたと、複雑になりましたが、受講生諸兄姉にとってなんらかの知的刺激になってくれれば幸いです。

研究に目を向けると、ちょうど本学に赴任した頃、資本主義経済は自己組織的なメタ・システムという理解に到達しました。資本主義経済は、自らとは異質なロジックを備えた世界をサブ・システムとして許容、包摂し、再生産するところの、より上位に君臨するシステムという理解です。たとえば、社会に広がるジェンダー意識（男女意識）ゆえに低い時給でもパートで働くことを希望する女性がいるとすれば、そうした賃金水準の基底にあるジェンダー意識が市場経済の建前とする民主主義や人権尊重に反するか否かといったことは不問にして、いくらで雇用できたかだけを自らの基軸をなす価格体系に拘り取ってゆくわけです。こうして、資本主義経済システムに包摂、再生産されるサブ・システムが備える多様なロジックに注目するようになったわけですが、この点は価格の物差しとして貨幣が帯びる質に、あるいは「意識を持った商品」としての労働力に着目させることとなり、講義でも地域通貨、熊沢誠氏の日本的経営論、ボードリヤールに倣った記号消費論などに論及しました。

資本主義経済は自己組織的なメタ・システムであるという理解は、ほんとうに自らのロジックで閉じ切れているのか、ほころびはないのかという疑問をも呼び起こしました。労働力商品に関わっても過労死や格差問題、あるいはフェミニズム運動を通じてそれが浮上してくることとなりますが、生態系独自のロジックを資本主義経済システムはどのように包摂しているのか、そこにほころびはないのかというかたちで、環境問題へも研究分野は広がってゆきました。この研究は、私たちの「豊かな」生活を支える近代科学・技術が前

提とする人間と自然との関係を問い直し、地域の風土が育んできた地域コミュニティの生活文化を再評価するスロー・フードやスロー・ワークへの関心につながっています。

このように研究分野が広がってゆくなかで、記憶力や思考力に衰えを感じる今日この頃ですが、社会科学では積み重ねてきた年輪という利点もあります。定年後も、環境論、ジェンダー論、貨幣論、さらに時間が許せば中小企業に働く人々を含む日本の労働者像について研究し、そのうちのひとつでもふたつでもかたちあるものに鍛え上げられればと夢見ています。

卒業生の視点

自分という素材

こにしりょうすけ

小西了介（公務員・昭和53年卒）

私は昭和53年3月に滋賀大学経済学部を卒業し、金沢市役所に就職して平成27年度に定年を迎えようとしています。平凡な人生ではありますが、大学生活と現在の暮らしのつながりを考えてみました。

直接的に思いつくのは、主にゼミナールを通じて論文を書く力を付けることができたことにより、公務員試験の論文に対処できたことです。そして、「地方財政学」の講義も論文作成の役にたちました。また、ハンドボールをやっていたことが、面接試験で評価されたような気がします。

趣味の世界では、尺八部にも所属し音楽に親しんだことにより、現在まで続く音楽鑑賞の趣味につながっていると思います。もちろん大学生活全体が影響を与えていると思いますが、一事例としてとらえていただければと思います。

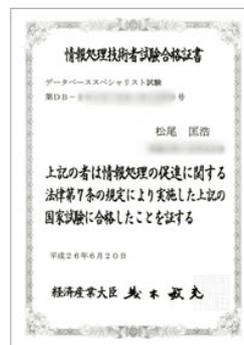
今、さらに思うのは、自分という素材そして現在の環境をいかにしっかりとらえ、掘り下げ発展していくか。このことが、現在の私自身も含めて人間として大切なのではないか。そう思う今日この頃です。例えば彦根の景色、景観は、学生当時何とも思いませんでしたが、全国的に見ても一級のものではないか。金沢も美しい所ですが、彦根の琵琶湖やお堀のような美しい水景はありません。こうした環境が私自身の感性にも影響していると思います。

リスク研究センター通信

◇難関試験である「データベーススペシャリスト試験」に経済学部生が合格しました。

IT系国家資格試験の中では難関試験の一つであるといわれている「データベーススペシャリスト試験」（DB試験）に経済学部企業経営学科3回生の松尾匡浩さんが合格しました。

詳しくは <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=topics:1681&r=0> をご覧ください。



「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代**

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局 (Office Hours:月一金 10:00-17:00)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>